

# 支部だより

第27号 (1997.1.13)

〒630 奈良市高畑町 奈良教育大学久保田研究室気付 ☎FAX 0742-27-9215

## 定例研究会のご案内

### (社) 東洋音楽学会関西支部定例研究会

と き : 1997年2月15日 (土) ①14:00~17:00

と ころ : 大阪大学文法経講義棟13教室

☎ 〒560 豊中市待兼山町1-5 ☎ 06-850-5124

交 通 : ①阪急宝塚線「石橋」駅下車 徒歩15分

②阪急宝塚線「蛍池」駅下車タクシー5分

③モノレール「柴原」駅下車 徒歩10分

14:00~15:00 研究発表

伺 (トン) 族の琵琶歌にみる文化化の機能—中国湖南省侗族自治県の場合—

薛羅軍

15:15~17:00 特別講習会

「ラバノーテーション (ラバン式舞踊記譜法) 入門—その5」 大谷 紀美子

イギリスとドイツで活躍した舞踊家ラバン (Rudolf von LABAN, 1879-1958) による身体運動の表記法の講習会です。今回は床面での動き方、足の付け方と滑らせ方を中心にお話ししていただきます。舞踊のみならず、演奏上での身体の動きや、音楽教育におけるこどもの身体表現など身体運動に関わる様々な問題の解明の助けとなりますので、ふるってご参加下さい。消しゴム付き鉛筆と画板の類をご持参下さい。記譜用紙 (A4版) は用意いたします。

なお例年、懇親会を12月あるいは2月の定例研究会終了後に行っておりましたが、このたびの2月の定例研究会では実施いたしませんので、開催につきましては改めてお知らせいたします。

- 当日は定例研究会に先立ち、関西支部役員会が開催されますので、理事・地区委員・参事の方々はよろしくご参集下さいますようお願いいたします。時間・場所につきましては別途ご案内いたします。

# 定例研究会記録

## ▶第180回定例研究会研究発表 要旨<

### 20世紀揚琴(ヤンチン)音楽への流れ

豊林

洋琴、瑶琴、蔽琴、胡蝶琴とも呼ばれる揚琴は、キリスト教伝道師により導入されたダルシマーを元にして中国人の手で改良されてきたもので現在の中国音楽によく使われている打弦楽器である。

明の万暦年代(1573-1620)、ダルシマーが海のシルクロードを通じて広東の沿海地区に導入され「洋琴」と呼ばれながら珠江三角州の広東語地区の語り物音楽の伴奏楽器として応用されることになった。明代末から清代初期にかけて、「広東音楽」という地方的な純器楽演奏形式が確立されることに伴って揚琴も広東音楽の主要楽器になった。そこから長い時期の芸術実践を積み「広東揚琴」という独特の奏法、旋法、曲目を持つ音楽ジャンルが形成され、嚴老烈、呂文成など広東音楽の音楽芸術家も生まれた。

揚琴はまた今世紀初頭に沿海都市上海に伝播し、まもなく上海を中心とする江南絲竹という合奏の主要楽器になった。そして、1920年代から任海初をはじめとする絲竹芸人により、しなやかな竹桿や、「加花」「減字」などの旋法を特徴とする江南絲竹の演奏様式も形成された。

さらに揚琴は内地の四川に広まり、「四川琴書」という語り物音楽に応用された。四川琴書は「三国志」など歴史的な題材をテーマにし、強い戯劇性を持つ語り物音楽である。それに適合するために、揚琴は楽器の形態、構造から演奏姿勢、奏法に至るまで改良され、四川琴書の演奏様式も形成された。

元の揚琴は小さく、21音しか得られなかった。1920年代から特に解放後は「国楽」の独奏楽器として楽器本体を大きくして転調可能なものにまで作りかえられ音域は4オクターブを超える。また演奏技法の点も独奏楽器としての多彩な技法が考察され、いろいろな形式の魅力あるオリジナル曲が生み出されている。

## ▶第181回定例研究会特別講演・演奏 報告<

### 古琴(グ-子)の歴史と美学

講演・演奏：成公亮(南京芸術学院副教授)

講師紹介：孫玄駟 通訳：橘田 勲

成公亮氏は、1940年中国江蘇省に生まれ、若くに広陵派の大家張子謙氏(1899~1991)に師事したのち、中国各地を旅して他流派の成果をも併せ修めた、今日最も実績ある古琴演奏家の一人であり、現在南京芸術学院音楽系の副教授の任にある。初来日にあたる今回の招聘は東京の民間団体「中国音楽勉強会」の奔走により実現したもので、本研究会での講演は東京に続く関西での一連の演奏・講演活動の一環をなす。また特筆すべきは、自身の所有する唐代開元三(715)年製の琴「秋籟」を携えてこられたことで、一般には博物館などでしか眼にしえない唐琴の実際の音色に接する希有の機会でもあった。

当日は、成公亮氏の長年の友人であり東京から同行された孫玄齡氏による紹介を冒頭に、成氏の講演が演奏を交えて進行した。講演の内容は、古琴の形状・材質・調弦法など楽器自体に関する側面から、歴史・基本的演奏技法・記譜法等に至る多岐にわたるものであった。とりわけ古琴独特の記譜法である減字譜の漢字的構成原理については、黒板に例を記しつつ実際の弾奏を示して一般の出席者の理解を助ける周到な配慮が見られた。またリズム付けが演奏者自身に委ねられている「打譜」という楽曲解釈法についても、自身の経験をもとに考古的学術性と創造的芸術性の結合として独自の境地を有することを懇切に語った。

楽曲は、《醉漁唱晚》《文王操》《憶故人》《帰去来辞》の4曲が演奏された。これらはそれぞれ曲調を異にしており、琴曲の多面的な魅力を出席者に印象づけたことと思う。

士大夫必須の音楽である琴楽は、日本にも奈良平安期と江戸期の2度にわたって伝来したものの、いずれも根付くことなく衰退してしまっ。近年、二胡を中心に中国民族楽器に対する関心が高まるのにもない、古琴も演奏と聴取の両面で徐々にではあるがその愛好者を獲得しつつある。成公亮氏のこの度の一連の演奏活動は、新たな脈絡の中で復活しつつある日本の琴壇にとって大きな刺激となったといえよう。

(報告 橋田 勤)

## ▷第180・181回定例研究会特別講習会 記録<

ラバノーテーション(ラバン式舞踊記譜法)入門-その3・4

大谷 紀美子

その1, その2に続くその3では、回転と腕の動きについて、その4では足の動き、ディスタンスと空間の幅について、各々具体的な説明がなされた。その4に参加してみて、初めて見る舞踊の記譜法に驚くとともに、学校音楽教育に携わるものとして、児童の身体表現の記録をより分析的に行うのに有効なのではないかと感じた。次回は楽しみである。

(報告 村上理恵子)

## 支部長挨拶

久保田 敏子

このたびの役員選挙改選によって、新しい関西支部役員が決まりました。前年度までは、山口修関西支部長が2期努めて下さり、学会本来の活動はもとより事務的な面でもすばらしい足跡を残して下さいました。

今回、はからずも私が支部長の大役を仰せつかりましたが、不器用なものですから、何かと皆様にご迷惑をおかけすることと存じます。なにとぞ、お気付きのことがございましたら、いつでも何なりとお申し越し下さりまして、ご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお「関西支部事務局は支部長の指定する場所に置く」という関西支部規約第5条によりまして、平成9年からの関西支部事務局は、従来の大阪大学の山口研究室から冒頭ページ記載の奈良教育大学久保田研究室に移転いたします。2期4年間にわたりお世話になりました大阪大学および関係諸氏に紙面を借りて厚くお礼申し上げますとともに、今後の連絡先をお間違えないよう、会員の皆様にはよろしくお願い申し上げます。

1996・1997年度関西支部新役員名簿（1996年10月29日～1998年10月28日）

理事 久保田敏子（支部長・総務・経理） 澤田篤子（例会・広報） 田井竜一（機関誌） 水野信男（副会長・機関誌）

顧問 片岡義道

参与 小野功龍 酒井諒 谷村晃 仲芳樹 中小路駿逸 難波正 牧野英三 馬淵卯三郎

参事 井口はる菜（総務・経理） 寺田吉孝（例会・広報） 福岡正太（例会・広報） 藤田隆則（例会・広報）

村上理恵子（例会・広報）

地区委員（中部） 久野壽彦 高橋昭弘 安田文吉

（近畿） 網干毅 泉健 伊東信宏 岩田宗一 志村哲 中川真 築島章子 山口修 山田智恵子

（中国） 岡田千里 片桐功 塚田健一 原田宏司 山田陽一

（九州） 松永健 松原武実 宮崎まゆみ

## 関西支部からのお知らせ

**入会申込方法・住所等の変更について** 入会ご希望の方は、郵便切手80円を同封し、下記に入会申込用紙・入会案内をご請求下さい。なお入会には推薦者1名（本学会員）を必要とします。住所等の変更につきましても下記へお知らせ下さい。

〒162 東京都新宿区市谷左内3番地 正派邦楽会館内 (社) 東洋音楽学会

TEL 03-3268-1237 FAX 03-3268-1238 e-mail LDT01776@niftyserve.or.jp

振替 東京 00160-6-55723

**定例研究会研究発表申込方法・支部だよりについて** 定例研究会での発表等を常時募集しております。ただし申込多数の場合など、必ずしもご希望に添えないこともありますので、あらかじめご了承下さい。申込の際は、発表の種別（研究発表、調査報告、資料紹介、研究演奏など）、題目、使用機等、希望日、所属、氏名、連絡先を明記の上、下記宛にご送付下さい。また支部だよりへのご意見や自由な投稿もお待ちしております。同じく下記へご連絡下さい。

〒582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1 大阪教育大学 澤田篤子

TEL/FAX 0729-78-3703（直通）

## 編集室より

入会したばかりでいきなり編集という大役をいただいてしまい、投入したてのWord 95をマニュアルとにらめっこしながら使っています。少し変わった書体や図や記号を入れてみましたが、いかがでしょうか。ぜひご感想をお聞かせ下さい。（村上理恵子）

新役員による体制が発足し、第27号から紙面も新しくなりました。今期の新企画および定例研究会日程につきましては第28号にてお知らせいたします。なお早くに研究発表要旨等の原稿をいただいておりますが、事務上の不手際から発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。（澤田篤子）